

2016年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯 090-2260-0671

Eメール: yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス: yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 2月号

節分のルーツとルール

「節分」は読んで字のごとく季節の分かれ目を表す言葉です。そのため、もともとは立春、立夏、立秋、立冬、それぞれの前日を「節分」と呼んでいましたが、それがいつしか立春の前日だけを表すようになったようです。

昔は、立春が1年の始まりの日とされており、新しい年を迎える前に邪気を払って福を呼び込むために、宮中行事として追儺(ついな)という行事が行われるようになり、その行事のひとつである「豆打ち」の名残が豆まきだと言われています。

鬼は「陰(おん)」に由来し、目に見えない邪気のことをさします。すなわち災害、病、飢饉など、人間の想像力を超えた恐ろしい出来事は鬼の仕業と考えられていたのです。

新しい年を迎える前日に、鬼に豆をぶつけて邪気を払い、福を呼び込もうということです。

豆まきが終わったら、1年の厄除けを願い豆を食べますが、食べる数については諸説あるようです。例えば、新しい年の厄払いなので、実際の年齢より1つ多く食べる、いわゆる「数え年」として1つ多く食べる、もともとが「数え年」と考え新年の分を加えて2つ多く食べる、満年齢のまま食べるなど…。

年中行事は“地方によって違う”とよく言われますが、節分は“家”によって違う場合も多く、お父様やお母様が節分のルールブック。みなさんのお家ではどんな節分ルールですか？

公文式の創始者・公文 公(くもんとおる)先生の言葉より

“学年を越えて進む意義”

すべての“学び”の基盤である「読み、書き、計算」の知的技術を十分に身につけてあげるためには、画一的ではなく、一人ひとりの子どもにちょうどのことを学習させることが必要です。

公文式では、学年相当以前の力を補強してしっかりとした土台を作ってからその先の学習に進むようにするため、多くの場合、その子の学年相当より下の段階から学習を始めます。しかし、学年という枠を取り外した学習法ですから、しばらくすると学年相当のところに追いつき、その後は学年を越え、学校ではまだ習っていない未知の内容を自分の力で学習していくようになります。このような体験を積み重ねて、自分の力で進んでいけるのだと知ったとき、子どもは自信をもつようになります。そして、もっと先のことが知りたい、できるようになりたいという意欲もわいてきます。

学年を越えたところを自習する経験をとおして、公文式が子どもたちに身につけてもらいたいのは、意欲的に未知の領域を学習していけるだけの高い自習力なのです。

2016年 2月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11 <small>休校(花火の日)</small>	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

本市場教室日□

横割教室日△

牛飲馬食

ぎゅういんばしょく

たくさん飲んだり食べたりすること。

「お父さんは牛飲馬食のせいで、すっかり太ってしまった。」

「牛飲馬食のような食生活はつつしむようにしよう。」

くもん出版刊「四字熟語カード」より

今月の四字熟語

ゆき子の一言コラム

子供の学力を上げる方法

公文のよいところ

復習のやり方は十人十色

「公文式が学力の定着を主眼にして復習させていることは理解できるが、ほとんど100点ばかりなのに復習する必要があるのでしょうか？」という質問を受けることがあります。まず申し上げておきたいことは「復習」も個人別・学力別で、全員同じやり方ではなく、各人の学力と学習状態に応じてさせるべきものであるということです。

たとえば、「うちの子はたし算はうまくいったが、ひき算になるとうまくいかない」とか「かけ算はできたが、わり算ができない」といったことがあります。このような場合、たし算をしっかりとやれば、ひき算ができるようになり、かけ算をじっくりやれば、わり算ができるようになることが多いのです。

大切なことは、答案をただ機械的に採点しているわけではないということです。1枚1枚のプリントを採点しながら、その子の学習状態をよく観察し、「この次は、どの教材を与えたらよいか」ということをたえず考えながら進めているということです。

～直しが多かったときに、その辛さをわかってあげるからこそ、いちばんの応援～

公文式の学習は、その子その子の「ちょうど」にあわせて教材が用意されますから、いきなり難しくなることはありません。とはいえ、単元の最後のほうでは、いろんなパターンの問題がミックスして出てきたり、少し意地悪な問題や、根気を要する問題が出てきます。

公文式は、その日の教材を全部100点に仕上げないと教室から帰れませんので、時には直しが多くて、なかなか終わらない日もあるでしょう。

送り迎えで、教室の外で待っていて、なかなかお子さまが出てこない、イライラされることがあるかもしれません。やっと教室から出てきて、車のドアを開けた瞬間、「こんなに遅くまで、何やってたの？」と、思わず叱り口調でお子さまに声をかけていることがないでしょうか。

学習はすらすらできるときばかりではなく、間違いながら、それを直すことによって力をつけていく段階があります。どこが間違っていたのか、自分で見つけて自分で直すことで、注意力と粘り強さを身につけていくのです。間違いから学ぶことは、進歩・向上の鍵であり、最後までやりとげる姿勢は、その後の学業生活、社会生活にも大きく役立ちます。お子さまがなかなか出てこない日は、まず「どうだった？」と聞いてあげましょう。聞いてもらえば、子どもはその日の学習の大変さを説明できます。何度も消してやり直した、少ししわくちやになったプリントは、がんばったお子さまの証しなのです。直しが多かったときに、その辛さをわかってあげるからこそ、「がんばる力」を強くしていくための、いちばんの応援になると思います。

2月無料体験学習のご案内

保護者の皆様へ

平素は公文式学習にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。

さて、公文式教室では、下記の通り「2月無料体験学習」を実施いたします。

公文式学習の大きな目的は自分から学習する力を育てること。

「自分でできた！」の体験は子どもたちに大きな自信を与えてくれます。

新しい教科にチャレンジして、ぜひ得意な教科を増やしてください。

入会を検討されているご兄弟・姉妹の方がいらっしゃいましたら、ぜひ無料体験学習にご参加ください。

また、お知り合いの方へ公文式学習をご紹介いただければ幸いに存じます。ともに学習する存在は子どもたちにとって大きな励みとなります。

★2月無料体験学習のご案内★

学習期間：2月16日(火)～2月29日(月)

期間中、2週間で計4回、公文式学習を体験していただけます。

費用は無料ですので、お気軽にご参加ください。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします。2月分の会費引き落としは1月28日(木)です。よろしくお願いたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。